

# 生物多様性地域戦略2030年目標について

## 2030年「ネイチャーポジティブ」実現」への貢献について

- 2021年G7の「自然協約」で明言され、世界で「ネイチャーポジティブ」に向けた動きが加速

### G7コーンウォールサミット「自然協約」(2021年6月)

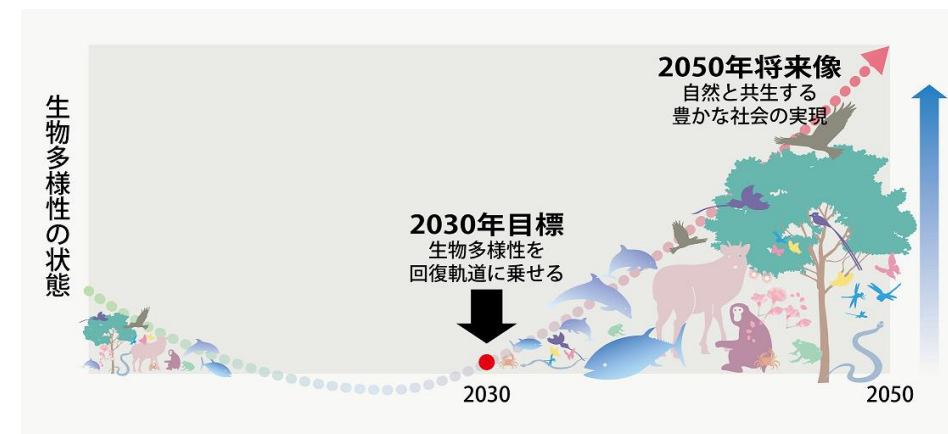
我々の世界は、ネット・ゼロを達成するのみならず、持続可能かつ包摂的な発展を促進することに焦点を当てつつ、人々と地球双方にとって利益となるような**ネイチャーポジティブ**を達成しなければならない。

- 生物多様性を回復軌道に乗せるには、行政だけでなく都民・民間も一体となって取り組む必要
- 多くの人々の賛同を得て、参画を促すための“キーワード”のもと、地球規模の課題にも対応に変革

## 都は世界目標である「ネイチャーポジティブの実現」への貢献を明確に打ち出す

### 東京における2030年の目標（案）

「自然と共生する豊かな社会を目指し、あらゆる主体が連携して生物多様性の保全と持続可能な利用を進めることにより、生物多様性を回復軌道に乗せる（**ネイチャーポジティブの実現**）」



# 基本戦略ごとの行動目標（案）

## 基本戦略Ⅰの行動目標①

### 「生物多様性保全エリア○○+」

#### 【目標の概要】 ※既存の緑施策の強化の視点

2030年までに「緑地の新たな確保」「公園緑地の新規開園」「自然地の保全管理」により、面積拡大と質の向上を目指し、行政の取組として面積を掲載する。さらに、行政だけでなく、OECMなど民間の取組を「+（プラス）」で表現し、様々な主体とともに目指すことのできる目標とする。

- A 緑地の**新たな確保**面積  
(開発などにより失われる緑地の確保の視点)
- B 公園緑地の**新規開園**面積  
(人の利用に供する公園緑地の拡大の視点)
- C 自然地の**保全管理**面積  
(自然地の保全管理による緑の質の向上の視点)

## 基本戦略Ⅰの行動目標②

### 「新たな野生絶滅ZEROアクション」

#### 【目標の概要】 ※戦略改定に伴う生きもの対策の視点

2030年時点で、新たに野生絶滅となる種がゼロとなるようにするための取組を様々な主体とともに実施することを目標とする。

#### 【目標設定に伴う効果】

絶滅のおそれのある種の生息・生育環境の保全や減少要因の改善（外来種対策、持ち去り対策など）、モニタリング調査、保全に係る主体間の連携の推進、人材育成などにつながる。

#### 成果イメージ

- ✓ アズマシライトソウ生育地保全  
→CRからの絶滅を回避し改善
- ✓ オガサワラカワラヒワ域外保全  
→CRからの絶滅を回避し改善

# 基本戦略ごとの行動目標（案）

## 基本戦略Ⅱの行動目標

### 「Tokyo-NbSアクションの推進 ～自然に支えられる都市東京～」

#### 【目標の概要】

※NbS = Nature-based Solutions :  
自然を基盤とした解決策

自然を基盤とした様々な解決策（NbS）となる取組を、行政・事業者・民間団体などの各主体がともに推進することを目標とする。目標達成に向けて、都が自然の様々な価値を「見える化」した取組を促進し、NbSとしての効果や成果を整理して内外に発信する。

2030年までを「NbS定着の期間」とし、その後更なるNbSの取組を加速させることを想定。

#### 【目標設定に伴う効果】

生物多様性の恵みを持続的に利用する取組やその価値を「見える化」することで更なる取組促進を図るほか、東京から発信することで都外への波及効果もねらう。

## 基本戦略Ⅲの行動目標

### 「生物多様性都民行動100% ～一人ひとりの行動が社会を変える～」

#### 【目標の概要】

生物多様性の保全と持続可能な利用のためには、生物多様性の言葉の認知や意味の理解だけでは足りず、自分事として捉え実際に都民一人ひとりが生物多様性に配慮・貢献した行動に移すことが何よりも重要である。

そこで、都民行動に焦点を当て、すべての都民が生物多様性に配慮・貢献することを目標とする。

その指標として、定期的にアンケート調査を実施することで、都民行動を把握する。

#### 【目標設定に伴う効果】

目標の達成に向けて、生物多様性に配慮・貢献する行動を促進することで、生物多様性に配慮・貢献する都民行動が増加していく。この取組により、都内だけでなく、都外における生物多様性への配慮・貢献も進む。

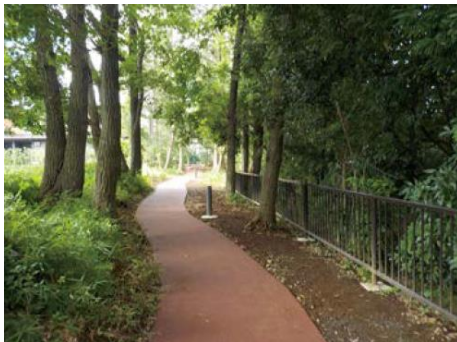
# 基本戦略Ⅰの行動目標①の数値（案）

- 森林・緑地・水辺等を、「生物多様性バージョンアップエリア」として生きものを育むのに適した環境に向上させる行政の取組として、2030年目標面積を掲げる
- 行政だけでなくOECMなど民間等の取組を「+（プラス）」していくための『旗印』として、わかりやすく訴求力のある数値に設定

生物多様性バージョンアップエリア10,000+

みどりの新たな確保

（開発などにより失われるおそれのある既存の緑地の確保）



公園・緑地の新規開園

（人の利用に供する公園・緑地の拡大）



自然地の保全管理

（自然地のみどりの質の維持・向上）

